

田中館愛橋のローマ字文

「TERADA Kun」について

千葉 明

一、はじめに

田丸卓郎と寺田寅彦は田中館愛橋門下の優れた物理学者として、又三人にとも日本式ローマ字書きの推進者として知られている。

しかしひと頃、寺田の物理学研究に対して「小屋掛け式物理学」だと言って批判する人が居たり、ローマ字書きの研究に対し、このような優れた学者にローマ字文の研究などをさせるのはもったいないと言った人もいたとされている。

田中館はこれらの批判に対して「TERADA Kun」というローマ字文で反論を書いている。そこで此のローマ字文を邦字訳して田中館の意見を聞くと共に、田中館愛橋記念科学館に保管されている「TERADA Kun」の原稿について述べてみたい。

二、「TERADA Kun」の邦字訳

「TERADA Kun」は寺田寅彦全集の附録「寅彦研究」に発表されている。その一部を邦字訳するが、まず寺田の物理学研究に対してである。

(略)

近頃寺田君の学問を批評して

「小屋掛け式だ」とか、「ブラック式だ」とか言う人もあると聞いたが、それは君の山崩れとか、地滑りとか、砂だとか、煙だとか色々の手掛かりのし切れない所に目を付けて、地球物理の奥行を色々の入口から探そうと試みたのに過ぎない。さき頃 BORN の書いた Philosophical aspect of modern physics を見れば、EINSTEIN・PLANCK. 等いづれか小屋掛けに有らざらん！というように読める。土崩れなどの見方は、人間の体でいえば、手や足にできたちよつとしたおできがあつても、それを頼りにもつと深く体内に潜んでいる毒か臓腑のさわりに考えを向けてみるというやり方であつて、決して小屋かえでも、食い散らしでもない。飛行機の上から下を見降していれば、どんな立派な御殿でも小屋掛けと変りない。さらばといつて、高帽をかぶつて自動車の窓からずらりと外を通る者には、店前の看板と玄関口の他は見えない。中の奥行も Roof-garden もわからない。中の人間は言わずもがな！と述べている。

なお寺田物理学に対する批判の全貌については、大森一彦氏の原著「人物書誌大系」寺田寅彦」によつて窺い知ることが出来る。

次にローマ字研究については次のように述べている。

(略)

この二人(田丸・寺田)が音素(Phoneme)に基づいた日本式ローマ字のために大いに

四、おわりに

寺田寅彦の物理学は「小屋掛け式物理学だ」と言ったのは長岡半太郎だと一般に言われている。しかしその真偽は必ずしも明らかでないようである。そしてこの批判に対しては多くの反論も述べられているが、現在では寺田の学問的業績としては原子物理学研究の魁となり、さらに科学的に重要な假説の提案者として時代を先取りしていた日本の代表的科学者であったとして高く評価されている。

この度は寺田物理学が批判されることが多かった時に、愛弟子のためとはいえ正面から寺田物理学の正当性を唱えた田中館のローマ字文について紹介した。

私の敬愛する寺田寅彦と岩手県人との深い繋がりの事実が、さらに見出されることを願っている。